

二つの通信で図書室をアピール

大倉 千鶴子

学校司書の現状

私は、学校司書として勤続10年で、勤務態様は、一日8時間、一ヶ月18日、複数校勤務の市の嘱託職員である。県内での学校司書の雇用としては恵まれている方だと思われる。

さて、平成24年4月文部科学省から、「いわゆる学校司書」等についての予算化が発表された。この学校図書館の充実に多額の予算が組まれた背景には、児童・生徒が図書館を活用し、課題解決能力を身につけたり、情報収集方法を発見できる場所とすること。また、読書によって生きていくための重要な要素を身につけさせる。この目的のための予算であれば誰も異論はないであろう。

だが、この目的遂行には司書教諭・図書館担当(教諭)・学校司書が、それぞれの職務を全うし、一貫した取り組みがなされなくては成果は望めない。しかし、現状の司書教諭の発令による業務の実態や、小規模校での司書教諭の無配置から考えると、学校図書館の急速な対応、変化は考えにくい。

そこで、「いわゆる学校司書」の予算化は、三者の連携が整うまで、そのねらいの対応を求められているようにも考えられる。ところが、学校司書は各校配置や正規職員としての雇用形態にはなっていない。複数校勤務の学校司書として、この課題にどのように向き合えばよいのか苦慮しているところである。

課題への取り組み

今、学校図書館に求められている「図書館の活用」と「児童・生徒の読書」について考えてみた。まず第一は生徒が図書室にくること、そして本を読もうという気持ちにさせることに考えは終始。ではその方策はと考えたのが図書館通信による図書室に関するアピールである。

実に当たり前で、どの学校でもこれまでに取り組まれていることである。

私が、これまで発行していた図書館通信は新刊書の案内に終始していた。そこで、これからは発行の目的を生徒が「図書室に行きたい・本を読みたい」とし、「新刊案内と図書室から」の別途発行とした取り組みを進めてみた。

- 1. 生徒が書物に関心と、読書意欲のわく「新刊案内」を工夫して発行する。

(資料1)

(資料1)

図書室からのおしらせ 第9号

発行 2012年7月12日
作者 南野中道校図書室
司書 大倉千鶴子

新刊 Pick up

偏差値70の野 青春野球小説
小中の全国大会で
上位優勝と優勝に示
すが 野球推薦もせず。
東大会超者全国1位の高校
に入学!! 甲子園は?

専門館出場と推理
学園の文化祭、吹奏
楽部で 起きた事件の
謎を解く 推理小説時。

3原氏物語のて出今ウ
ヒカルが 茶を煎る
気持ちに、わかましくも、
胸もとぎめく作品。
沸から始り、切なけ
ても、僕し気持ちになる。

1/7エスト おすすめの本
5月の図書部会、希望図書のアンケートを
とりました。みなさんの1/7エストを中心
に17冊の新刊が入りましたので、その中
いくつかを紹介しします。

1/7エスト
『三匹のおっさん』は、自由で馬が舞う 冒険!
コロコロ2000名だ! 7冊です。ほんとだか、
ユニークな書名が多くて、みなさんの興味を
とりますね。

おすめの本
『2つの『平家物語』は、実際の平家物語の
解説つきで、読みやすく、しかも紙面に凝っ
ていて、いにも女子生徒受けかな。
『ももへの手紙』は、4月に映画化した内容
です。映画とかなる場面を解説しています。

その他
『地球旅族』世界30カ国をのろの暮らしは、
寝が快適で読め、読みやすく、それでいて、
感動もできる本だと思います。
『Enjoyボール』からは、はにかの7-7-7の日。
今流行しているボールの入門から、高難
度まで、写真入りで、詳細に記された
内容です。

夏休みも 目前になりましたが、
新刊書もふくめて、1/7冊まで
貸出すことが可能です。
今から、夏休み読みたい本の
計画をたてては
どうでしょう。

- (1) 「新刊案内」を毎月一回以上発行し、生徒の手にいち早く届くように心がける。

- ・月平均35冊の購入本のすべてを新刊案内として発行し、生徒の図書室への来室を促す手立てにする。
- ・購入本の紹介では、中学生用に簡単なコメントを付け、少しでも興味がわくように配慮する。なお、適当なコメント探しのため、自らも新刊本を読むように心がける。
- ・図書部の活動として、「私のおすすめ本」のポスター制作に、新刊本の紹介をお願いする。

(2) 「新刊案内」の紹介欄に生徒の希望本であることや購入選定の経緯などを知らせる。

- ・図書部の活動である「私のリクエスト本」のアンケート実施から、希望本をまとめ、図書館担当の先生方と相談し、購入にあたっていることを伝える。
- ・先生方より中学生に是非読んでほしい書籍を選定していることを伝える。
- ・全国における書物の発行部数や人気作家のランキング情報などを知らせる。

2. 生徒にとって身近な図書室であることを知らせる「図書室」だよりの発行(資料2~4)

(1) 図書部の活動の様子や、学期ごとの読書量を知らせる。

- ・図書部の活動の方向をしっかりと把握するため、専門部会へ可能な限り出席し、みんなの図書室づくりに頑張る部員の姿を紹介する。
- ・図書部の活動の成果の一つである読書量を学期ごとに知らせ、全校生徒一人一人の努力の積み重ねとして紹介する。

(2) 図書室でのエピソードなどを伝え、行ってみようかなと思う図書室。また、コミュニケーションの図れる場になることもめざす。

- ・図書部の活動における出来事はもちろん、生徒の読書する姿、何やらつぶやきなど図書室の風景として紹介する。
- ・図書室では気軽に話ができて、ちょっとした相談もできるといった図書室ならではの環境であることを紹介する。

(資料2)

竹田南部中 図書室
発行 毎月10月4日
竹田南部中図書室
司書 大倉千鶴子

前期図書部(活動成果)紹介
～1人平均10.6冊の読書冊数のあげ～

前期部長はじめ、15名のスタッフで、「本を読みたい」「図書室に行きたい」「図書室がにこい」というスローガンを掲げ、目標達成に向け、さまざまな活動や取り組みをすすめてきた。その結果として1人平均10.6冊の読書量になったのだと思います。

1. 常時活動として、図書室出し入れ責任をもち、全スタッフで取り組みました。
2. 図書室の整理をいつも10月4日、来館したみなさんが気持ちよく閲覧できるように、整えてくれました。
3. 本の紹介として、みなさんに読書の興味をいかにさせる(私のおすすめ本)と題して、ポスター制作をしました。

また、まだ、いろいろな気配りや心遣いをして、「本を読みたい」「図書室に行きたい」というムードづくりをして、その結果として1人平均10.6冊の読書量になったのだと思います。

前期の16名のみなさんの地道な活動と気遣いの活動に感謝しています。

そして、全校のみなさんが読書してくださることに、何よりもお礼申し上げます。

部会企画「私のおすすめ本」への絶賛

先日、図書館の部長さんから、廊下・階段に掲示している「私のおすすめ本」のポスターについて、こんな言葉をいただきました。

「すごいポスターによる書籍案内がはたして、絵の構成・色・説明文とのバランスのよさなど、すばらしいデザイン画です。おすすめ本もじっくり読まれている。その説明文から、つい引き込まれて、私も読みたい……という気持ちになります。私共、いつも本にかかっているもので、こんな文章はできません。生徒さんの表現力がすごいんですね。」

また、竹田市立図書館の方や本校の先生方からも、「すばらしいポスターですね」「月あかりの色紙などイベントがありますね」など、おほめ言葉をたくさんいただきました。

心をこめて制作した作品は人を感動させると思いますが、まさしく、絵や言葉に力、言葉が人の心を揺り動かす作用を果たしたものだと思っています。

あらためて、日々の教科学習が「生き力」となっていることを紹介したいと思いました。みなさん、廊下・階段を通るとき、もう一度、目を凝らしてみてください。

通信発行後の様子
新刊案内から

新刊案内の発行日には、新刊目当てに図書室を訪れる生徒が増え、様々な光景に出会うことができた。

- ・「ヤッター」と新刊本を手にし、歓喜して帰る生徒。
- ・「誰のリクエスト本ですか」と尋ね、「だったら、その人の次に予約をお願いします」と相手の気持ちを察する生徒。
- ・「どの本がおすすめですか」と相談する生徒。
- ・新刊に希望本がなかったのか他の本を探す生徒。
- ・「これっ、母から頼まれたの」とそっと耳打ちする生徒。
- ・「この本は家にあるの、でもみんなに読んでほしかったのでリクエストした。誰が借りるか楽しみ」と話す生徒。
- ・友だちと一緒に来室する生徒が目立ち、中には床に座り込んで「どれにする」と楽しそうに語り合う生徒たち。
- ・新刊案内を手にカラーの表紙絵に目を見張る生徒。

新刊案内が生徒の図書室への誘いに効果があることは事実である。そして、友だちに誘われ一緒に来た生徒も、本を借りたり、読む場面化ともなった。

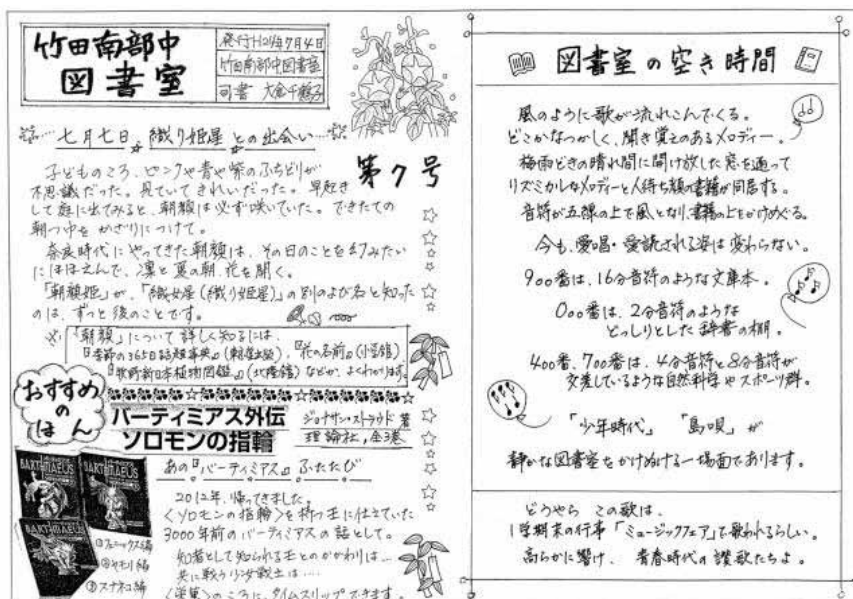
新刊案内を家族に見せている生徒が意外に多く、PTAなどの行事で来校の保護者から、通信をもとにお話する機会が増えた。また、子どもを通して保護者への貸し出しにもつながっている。

南部中・図書室から

図書室での日常の出来事を紹介していく過程で、生徒、教職員、保護者とのコミュニケーションが築かれ、図書室がより身近に感じられるようになった。

・図書部の活動風景を紹介されたリーダーは、より私との距離を縮めて、活動方法や自分の考えを告げてくれ、読書量の結果等については、その成果を一緒に喜んでくれた。

・図書室に舞い込んできた生徒の歌声の紹介では、先生方から「懐かしい歌ですよ」「私も図書室で聴きたかったな」とか、生徒からは「聴いててくれたの」「どうだった」とコミュニケーションが図れる場面になった。



・広い図書室を掃除してくれる少人数の紹介からは、大変さを理解してなのか、他の清掃区域を終えると手伝いに来てくれるようになった。この出来事が学級会で話し合われ、学級成員のすばらしさをたたえ合う場になったと担任の先生からお話を聞いた。

- ・図書部員の普段の活動風景を紹介した記事では、その生徒を取り巻く学級生徒から全校生徒を代表した行動として受けとられ、集団生活の中で、普通に自然に振る舞えることの居心地のよさを共有する場面ともなった。
(担任からのお話による)

(資料4)

竹田南部中 図書室
発行 竹田南部中 竹田南部中図書室 司書 大倉千鶴子

後期 図書部の活動 はじまる
～ 蔵書数300冊の貸し出しをめざして～

南中は従前の後期活動がはじまりました。新しいリーダーには、前期の部員がkkmと決まり、前期の「1人平均10.6冊の読書」輝かしい成果を引き継いでくると期待しています。

そこで、後期活動をあらかた紹介するとともに、本校の蔵書数1万冊の「2024年度」の大幅増進に、全校のみならず、各クラスにチャレンジしていただきたいです。

後期目標「読書を通して一人一人の心の成長を促す(図書部)」
・ 読書の楽しさを伝えること
・ 読書の楽しさを伝えること
・ 読書の楽しさを伝えること

図書部員: 都合が悪くても、必ずお読みください。
校長先生は責任をもって、活動してください。
みんなの図書室にしよう。みんなが読んで、みんなが活用してほしいと願っています。

第14号

図書室の風景から (2)
～ 地道な活動のできる学校の雰囲気感謝～
後期部員のMくんを紹介します。
時間をつくっては、図書室に来てくれます。入室の際挨拶が自然体で、いつも心がなごみます。必ずカウンターの前に貸し出しカードを手にします。「あれ、これは期限が過ぎてござい、なにやらひびくと。図書室で、その貸出期限の人と必死に、期限が過ぎて、早く返してください」と伝えてくれる。また、クラスの友達に同様のひびくは、制約の会で、「この本を借りているひびくは貸出期限過ぎて、早く返してください」と伝えてくれるとやらだ。

図書室で、そして、学級での活動に何のトラブルも発生しない、すごいと感じる。南中生一人一人のレベルの遵守への心が育っているからなのか。担任の先生の毅然とした指導に守られているからできる行動なのか。この小さな活動の積み重ねが、読みたい本がみんなの手に早く貸し出されること、とくに、「正しいことが言える」竹田南部中学校の雰囲気です。だから、空想の教師たちで過ごせることに、感謝の日々です。Mくん、そして、南中のみんな、ありがとうございます。

- ・通信を通じて、生徒や保護者との距離が縮まったのか、将来の職業・進路について自分の気持ちを開示してくれる生徒が増えた。保護者からは子どもについての相談や「今度、女子会しませんか」など、気軽に声をかけてくれるようになった。

南部中・図書室からでは、図書室は気軽に行けるところの雰囲気は伝わっていると思われる。発行後に何らかのつぶやきが聞こえたことや、レファレンス業務につながる気軽な要請が増えたことも事実である。

おわりに

複数校勤務の通信発行は大変な作業である。通信の目的を果たさなければと考えると力不足から悩むことも多々あった。

今年度は各校25号の発行になりそうだ。このような手作りの通信の発行では、新刊のコメントづくりや図書室の風景など記事を書くために、いつもアンテナを張り続けてきた。図書部のリーダー、図書部員、図書室清掃の生徒、書店の方等々、風景、記事を書く前には大まかな説明をして了承を得ている。該当生徒が在籍している学級担任、教科担任へも同様の手続きを取っている。特に個人情報については、後々問題が起きないように細心の注意をはらっている。

毎号、両校の教頭先生から全文に目を通していただき、発行許可をお願いしている。また、学校主事の方には気持ちよく印刷して生徒への配布棚におさめていただいている。このような過程で通信の発行に先生方から理解を取り付けている。かなりのエネルギーも費やしている。

結果として、生徒、先生方、そして保護者とのコミュニケーションを深めることができた。

最後に、何よりも図書室に来る生徒や読書量が増えたことを喜ぶたい。

(おおくら・ちづこ 竹田市立竹田南部中学校)